

There 構文の感覚と意味

小間坂 和 一

There 構文はふつう不定冠詞 (a, an), 不定の数量を表す形容詞 (some, no), 数や量を具体的に表す言葉 (two, a few, much) のついた名詞または不定代名詞 (anything, nothing) を、それぞれ未知の新情報として話題に登場させ、話し手と聞き手の談話の流れの中に新しい要素を導入するのに使われています。一般的には There is の後であれば、不定冠詞のついた単数名詞, There are の後なら、複数名詞が後に続くのがふつうです。

話し手がある内容を伝えたいとき、話し手にとって既知の情報であっても、聞き手にとってそれが特定できない未知の情報であれば、There 構文の中にその不特定な要素を組み込み、談話の流れの中に新たに導入して、情報を共有することができるのです。従って、There 構文は話し手と聞き手の談話の流れでは、話し手にとってすでに既知の旧情報であっても、聞き手には未知の新情報の話題であれば、There 構文を使って導入することができます。たとえば、電話をしているとき、話し手には眼前にあるものであっても、まだ話題に触れていないもので、聞き手が認識できないものあれば、定冠詞を使わずに、名詞に不定冠詞をつけたり、名詞を複数形にしたりして、There 構文で状況を説明することができます。

要するに、There 構文では、there は「そこに」という具体的な意味を失って、抽象的な度合いの強い存在を示す文頭の標識となっています。より本質的な解釈を別の角度から考えてみると、文頭に「ある・いる」という抽象的な概念の導入と主語の右方移動に伴う、右方位置の具体的な事実の導入の二つが同時に存在するように思われます。There 構文では抽象的な記述と具体的な記述の両方を絶えず意識しながら、意味を感覚的に把握しなければなりません。There 構文では、その対象となる文の抽象的なものと具体的なものが何かを認識できることが大切です。現実には一見して簡単そうに見える構文ですが、つかみどころのない難解な場合も多々あります。構文が簡単である反面、意味の解釈は抽象的な度合いが増すのかもしれない。

There は虚辞（形式主語）なのか？

There 構文の There は文頭に位置しているが、ものの存在を表す虚辞（形式主語）に過ぎず、後に続く不特定な名詞が新情報である真主語です。その事実を検証して、それに付随するさまざまな問題点を検証したいと思います。

There 構文は、英語の文の位置関係では文頭に位置し、次のように書き換えられるので、文の主語であると考えられます。これは自明のこととして揶揄されるかもしれませんが、

再確認の意味でも論理の展開でもぜひとも必要なので、考えていただきたいと思います。

1. a. There's a good restaurant near here.
- b. Is there a good restaurant near here?
- c. Yes, there is. No, there isn't.
- d. There isn't a good restaurant near here.

上の4つの例では、1aは平叙文で主語とbe動詞が短縮されています。1bはbe動詞が主語の前の位置に移動して、疑問文になっており、1cはその疑問文に対する返答であり、1dは否定文で否定語であるnotがbe動詞の後に置かれ、短縮されています。

1の例でもthereの置かれている位置関係から主語であることは明白です。さらに次のいくつかの例文でも、主語であることを容易に確認することができます。

2. There's some beer in the fridge, isn't there?
冷蔵庫にビールは入ってますよね
3. What is there in the box?
その箱に何が入っているのか
4. No one dreamed of there being such a beautiful forest there.
誰もそこにそれほど美しい森があるとは夢にも思わなかった。
5. We don't want there to be any misunderstanding
私たちはどんな誤解があっても困る
6. It is impossible for there to be an earthquake in this area.
この地域で地震が起こるということはありえない。
7. Let there be no mistakes about it.
そのことについては、間違いのないようにしてもらいたい。
8. There being no buses, we had to walk all the way.
バスがなかったので、私たちはずっと歩かなければならなかった。

2の例は付加疑問文で、肯定文の文末にその肯定文の動詞にnotが付加され、主語と動詞の位置が入れ替わり、付加疑問文になっています。3の例では、Wh疑問文として疑問詞になり、疑問詞が文頭に移動しています。4の例では、ofにthere isの動名詞句が埋め込まれ（挿入）ています。5と6の例では、there isの不定詞句が埋め込まれ（挿入）ています。7の例では、三人称の命令文になっています。8の例では、there areの文が分詞構文になっています。

このように、1から8の例文は、いずれもbe動詞がそれぞれの文に相応しい形に変えられています。thereとbe動詞の主語と動詞の位置関係は変わっていません。それゆえこれらがThere構文であることと、Thereが文の虚辞であり、しかも（形式）主語であり、右方には真正主語の存在が容易に想起され、その位置を何の抵抗もなく、突き止められるという特徴があります。

There 構文の否定形と意味

9. There is not a large bookstore near here.

9 は二通りに解釈できる。

- a. There isn't a large bookstore near here.

(この近くには大きな本屋がない)

- b. There's not a large bookstore near here.

(この近くには大きな本屋がひとつもない)

9a では、be 動詞に否定語が縮約結合して、文全体を否定し、「大きな本屋がある」ことが否定されています。9b では、not に強勢を置いて読まれ、「大きな本屋がひとつ」が否定されています。文全体を否定するのではなく、文中の語句の一部に否定の概念が付与され、その本来の意味とは異なる意味を帯びて「大きな本屋がひとつ」の一部が否定され、「小さな本屋が多い」ことを暗示しています。

10. There is no large bookstore near here.

(この近くには大きな本屋がひとつもない)

10の例は9bの意味と同じです。There 構文では no を使って文を否定するのがふつうです。その場合、no は文全体ではなく、その次に来る名詞 large bookstore の large を実質的に強く否定しています。まったく異質のものになる場合があります。

否定語または否定語句はその構文によって、置かれる位置が異なります。not の場合、助動詞・be 動詞の後に置かれ、その助動詞・be 動詞に短縮されるのがふつうです。no の場合、There is no book on the table のように名詞の前に置かれるのが一般的です。しかし、There is not a book on the table にすると、数が強調され、「机には本が一冊もない」と表現されることがあります。no は数・量・程度を表す形容詞で、次にくる名詞を修飾し、「ひとつも～ない」と表現しています。There is no... の構文では、no のよって名詞の存在情報が迅速に伝達され、話し手にも聞き手にも後続の名詞の存在が認識されます。すなわち、no はその存在を否定表示するための標識となっているのです。no は効率よく後続の名詞の存在を否定することができます。この理由として、no のほうが not よりも意味の伝達が迅速正確で、置きやすく、使いやすいことが考えられます。日本語と違って、英語では否定の意味を早く相手に伝えるために、no をなるべく前に出すこと、これが鉄則です。これはほとんどの日本人が苦手とするところです。no は、とても便利で英語らしい表現のひとつです。

There 構文の否定疑問文での否定語の位置について注意すべきことがあります。

11. a. Is there no large bookstore near here?

- b. Isn't there a large bookstore near here?

- c. Is there not a large bookstore near here?

11の3つ例は否定疑問文です。aもbもふつうに使われますが、cの例は文法的には容認可能な正しい文ですが、あまり自然な英語ではなく、使われません。

There 構文の意義

There 構文は人または物の存在を示す代表的な形式です。まだ知られていない人や物を新しい情報として提起するのに使われます。例でもわかるように、肯定文では a, an, some, 疑問文では、不特定を意味する any がよく使われます。

12. There are some cats in the park.

その公園に猫がいます。

13. Are there any cats in the park?

その公園に猫はいますか。

14. There is a cat on the roof.

屋根の上に猫がいます。

15. A cat came into the room.

一匹の猫が部屋に入ってきた。

12の不定代名詞の some は不定の数を漠然と指し、そのために訳さないことが多い。この some はいつもよく出かける公園に正確な数は分からないが、猫が実際に多く実在しているイメージを印象付ける効果があります。some がなく cats だけであれば、複数総称の「猫」と呼ばれる生き物が持つイメージだけ先行して、頭の中には広がり、その公園に存在する具体的な猫のイメージが描けないのです。some があることで、いつもの公園の陽だまりに群がるさまざまな種類の猫の姿をあちこちに思い浮かぶことができるのです。つまり、some は猫が実際に存在すると判断される場合に使われます。意味的にはかなりの幅があり、「ゼロではないが全部でもない」ことを暗示しています。具体的な数については「2以上」かまたは「3以上」と解釈されます。

14の不定冠詞の a は「一匹の」か「ある」という意味ですが、そのどちらにも訳さないことが自然であることが多い。不定冠詞の意味の「ある」は存在をそれとなく匂わせて言及するために使われる場合と、言及している猫がどれかを意図的に隠すために使われる場合があります。15は、旧情報である主語に不特定を意味する不定冠詞が使われているので、不自然なように思われますが、出現を表す動詞が使われている場合は不自然ではありません。

There 構文の機能は、一般に談話の流れの中に新しい要素を導入することです。新しい要素はまだ何も知らされていないわけですから、a や some を使って文脈に導入されるわけですが、a や some は全体の部分を表し、There 構文での名詞句に a や some が付いているのは、There 構文が全体の中の部分を新情報として談話に導入するのが There 構文の機能だからです。

There 構文では、文頭の There は、場所の意味を持たない形式主語であり、「There is/are+主語」の形式で表し、be 動詞の後ろに置かれ、主語が真主語であり、「～がある」と言う意味です。忘れてならないことは、真主語には「不特性」があることです。もう一つの重要なポイントは、場所の副詞句です。

「猫がいる」と聞いて、「ああそうですか」と納得するでしょうか。「どこにですか」と誰もが素朴な質問をするでしょう。「公園です」と聞いて初めて公園の猫の話題に焦点が集まり、意味の不自然な流れが一掃されることでしょう。「猫がいる」という新情報の意味に「公園に」という旧情報がつながり、意味が自然に流れるのです。ですから、この場所の副詞がなければ、「いつ」「どこで」という日本語の感覚からすると、おせっかいな疑問が、英語感覚からすると、正直な疑問が生じて、意味の流れが途切れ、不自然さが起きるのです。

固有名詞や人称代名詞、定冠詞 (the)、指示詞 (this, that, these, those)、数量詞 (each, every, all) などの付いた名詞は、特定のことを指すので、There is/are の後には使えません。それらは、話し手と聞き手がそもそもその名詞を知っている間柄でなければ使うことのできない既知情報を表しています。すでに知っているという感覚と、未知のものを話題に登場させる There 構文の持つ感覚が矛盾するので不自然なのです。

There is/are の後には the の付いた名詞や固有名詞ふつう使われませんが、次のような場合は容認可能です。

16. Ours is a large family. There's my grandmother on my father's side, my parents, my two brothers, my sister, and myself.

我が家は大家族です。父方の祖母、両親、兄二人に妹、それに私です。

この16の例では、大家族の家族構成を年齢順に一人ひとり列挙しています。There 構文の真主語には、あまり見かけない my が表現されています。アメリカ英語では、家族以外の人に、自分の祖父、両親、兄弟姉妹を話しするときは my をつけますが、my は定冠詞と同じ特定を表す表現です。ふつう使えないのですが、一人ひとり列挙する場合は使うことができます。

17. I need money. There's the gas, the water and the electricity to pay.

私は金欠病です。ガス代も水道代も電気代も払わなければならない。

17の例は16の例と同様に、リスト文と呼ばれ、一つひとつの事柄を旧情報として定冠詞を伴って明確に真実を伝えています。17の例では、生活の基盤でもある光熱費の支払いにも事欠く日常生活の困窮した生活状況が一つひとつ取り上げられています。「ガス代、水道代、電気代」の名詞の前には the があります。

There 構文は聞き手にとって新情報を担う要素を導入するという機能を持っているので、There's に後続する名詞は不定冠詞が使われます。しかし、新情報を担う要素であれば、不定冠詞ではなく、定冠詞が使われます。16や17の例はどの項目をどれだけ多く選択したかが新情報になります。つまり、既知性の高い項目でも、聞き手の予測の範囲を超えるほどの異質なものであることを浮き彫りにしているのです。

さらに、ここで注目して欲しいことは、上の二つの例は複数の名詞が主語になっているにもかかわらず、There's と単数扱いになっているということです。There are のかわりに There's が会話文ではよく使われます。

18. There is no end. There is no beginning. There is only the infinite passion of life.

終わりもない。始まりもない。あるのはただ永遠の人生の情熱だけ。

no は数量形容詞で単数名詞にも複数名詞にも用いられます。a, some と同じ不定の数量を表し、There 構文ではよく使われます。18の例の三つ目の there 構文は an infinite passion になるはずですが、文脈によって名詞が強調されて定冠詞が付いています。

19. There is the problem right there.

まさにそこに問題があるのです。

19の例では、的を射た発言に臆面もなく、間髪を得ず相槌を打っている表現です。これは意味の面から考えると、That's とあまり変わりません。

20. "Is there anyone coming to dinner?" "Yes, there's Harry and there's also Mrs. Jones."

「だれか夕食に来るの」「ええ、ハリーさんが来ますよ。それにジョーンズ夫人も。」

20の例では、There 構文を使って、「夕食に来られる人」の Harry と Mrs. Jones という二人の名前を挙げています。話し手と聞き手の間には、そもそも知らない人の名前を何の脈絡もなく伝えても理解されることもなく、それが使われているということは、「Harry と Mrs. Jones は会うのは初めてではなく、あなたは忘れているかもしれないけれど、かなり以前会ったことのある方がこられます」という再導入・再認識の表現になります。

21. There is always a next time.

必ず次の機会がある。

There is の後には不特定の表す名詞が続き、そのために一般的に不特定を表す a や some で形容するのが大原則になっています。next は、next time あるいは the next time の形式でよく使われますが、この例では、a next time になります。この例は、むずかしい難題に果敢に挑戦したが、失敗したときに慰める意味で使われます。

22. There are other fish in the sea.

海にはほかにたくさんの魚がいる。

fish は同種の魚でも、種類の異なる魚でも、fish で fishes にはなりません。ただし、種類を強調するときには fishes になります。しかし、ここで There 構文は他に類を見ない注意すべきことがあります。be 動詞が左方ではなく、右方の名詞に数が一致することです。それはとても簡単なことですが、気づかずに見過ごしてしまう問題でもあります。この例は、失恋した人に声をかけて慰める言葉として、他にもいい人がたくさんいることを意味する諺です。

23. There is a first time for everything.

どんなものにも最初というものがある。

先の21の例にしたがって、first time であっても a first time になってしまうのです。first が the を必ずしも必要とするわけではありません。順序という概念が確定固定でない場合は、不定冠詞が使われます。

24. There is a rumor that the House of Representatives will be dissolved.

衆議院は解散するということです。

24の例は同格節です。rumor は that 節による同一指示関係を帯びていない不定名詞句

で表現され、新しい談話の題材の導入に There 構文が一役を担っています。同格構文でも、同格節を表す内容を、話し手と聞き手のどちらかが既知と扱うか未知と扱うかによって名詞句の定冠詞・不定冠詞の別が決まります。すべての名詞が同格表現を取るわけでもないように、同格だから、定冠詞以外は現れないと判断するべきではない。

このように There 構文の持つ意味に焦点を当てながら、There 構文の機能について説明を加えてきました。地球上で唯一のものを表す名詞、本来定冠詞をとるべき形容詞や名詞、通常無冠詞で使われる名詞、of を伴う動名詞、定冠詞を要求する関係代名詞や連結節や同格節によって修飾される名詞句でも、There 構文では不定冠詞が使われることがあります。There is/are に後続する名詞句には聞き手に了解されていない予測可能性の低い不明確な名詞句が入り込む、という事実があるのです。これは自由の発想の世界であり、特定の固定した状況を許さない重要な役割を担っているのです。つまり、There 構文は談話の中に新しい人や物を導入する機能を持っているので、稀にしか起こりえない非恒常的な意味合いのものが優先されるのです。There 構文の特徴を理解することは英語に敏感になり、英語の世界に入っていくことができます。There 構文をさらにもっと深く理解してみましよう。

There 構文の固定化表現

There 構文の be 動詞は、文法上後続する主語と数が一致しますが、口語では主語が複数であっても、There's が固定された表現として使われることが多い。たとえば、次のような表現もよく使われます。

25. There's a bed, a table, and two chairs in this room.

この部屋にはベッドが一台、テーブルが一台、椅子が二脚備えられています。

← There's a bed, a table, and two chairs (are) in this room.

上の図は there's が柔軟性に欠け、形式化・固定化し、There's の「存在」の意味を失いかけていることを意図的に表したものです。There's の意味が薄れ、後続する主語である a bed, a table, and two chairs が強調され、特に a bed に焦点が定まったものと解釈することもできます。

There 構文は There's が形式化され、固定の表現として用いられていると述べましたが、次のような文でもそれを裏付けることができます。

26. There's somebody at the door ^ wants to see you.

どなたかあなたに会いたいという人が玄関に来ていますよ。

関係代名詞の目的格は口語では省略されるふつうですが、There is/are で始まる限定用法の関係代名詞は、主格でも省略するのがふつうです。

27. This is the only one ^ there is.

今あるのはこれだけです。

28. Water is the healthiest drink ^ there is.

水ほど健康的な飲み物はない。

関係詞節が there is で始まる場合、その主語になる関係代名詞も省略されるのがふつうです。

What is there ～？構文での there の有無

「～に何かがあるか」をたずねるとき、What is+ 場所の副詞句の構文と What is there+ 場所の副詞句の構文の2つが考えられますが、there を使う必要のない場合と、「存在」を示すことが明確でないときには、there をあえて積極的に用いなければならない場合があります。簡単に言えば、「存在」を表すことができる場合と、できない場合によって、there の有無が決定されるのです。この二通りの曖昧な表現方法から、どちらとも言えない場合があるのです。

29. What is on the table?

30. What is there on the table?

テーブルの上に何がありますか。

29と30の例では、29の例が好まれると思いますが、30の例も誤りであるとは一概には言えません。では次の例はどうでしょうか。

31. What is there to talk about?

何の話があるのですか。

31の例は、there がなければ意味が不明瞭になります。このように、「存在」を表すことが明確でない場合は、there が必要になります。次の例は、「あなたは何人家族ですか」と「5人家族です」という意味の英語です。

32. Q1: How many people are in your family?

Q2: How many people are there in your family?

Q3: How many of you are there in your family?

Q4: Do you have any brothers or sisters?

A5: There are 5 people in my family.

A6: There are five of us in my family.

A7: I'm married. We have three children.

A8: I have two brothers and one sister.

There 構文の「存在」のことについて述べてまいりましたが、場所の副詞句の in your family が文の後方にあります。There 構文では、新情報の不特定な名詞と場所の副詞表現が重要なポイントです。この場所の副詞表現がなければ主語を限定することができず、不自然になります。people は「人」のことですが、persons や men もふつうに使われます。people は「人々」の意味ですが、「二人」でも two people ですし、「500人」は 500 people になります。しかし、people は以前は「家族」という意味で使われていました。

家族に対するイメージについて、少し触れておきます。日本語感覚では、“How many people are there in your family?” と尋ねます。一方、英語感覚では、“Do you have any brothers or sisters?” と尋ねます。3世代同居の家族の全体数を尋ねていますが、これはアメリ

カ人にとっては、とても驚きです。アメリカでは子供は成長すると親元を離れるからです。アメリカでは配偶者や子供たちや兄弟のことを述べます。もう一つ興味深いことは、自分というものの存在です。日本では自分を最後によく表現します。アメリカでは、自分を兄弟の数の中に含みません。このように家族観の違いが言葉にも表れています。日本では、縦の家族観があり、アメリカでは横の家族観があるのではないのでしょうか。family は「子供たち」という意味もあります。32 の例の A6 は日本語感覚からすると、何か居心地の悪い、ぎこちなさがあります。us と my という二重の人称表現によって、あまりにも家族愛と家族の絆が誇張されすぎている嫌いがあります。次の例をご覧ください。

33. Whose shoes are there?

だれの靴ですか。

33の例には、場所を表す副詞句がありませんが、正しい例文です。ある家の中のどこかに脱ぎっぱなしの見かけない靴を見て、このような文が発言されたのでしょうか。日本と違って、家の中では靴を履いたまま過ごすことがふつうなので、場所はバスルームか寝室のどこかにと、たやすく想像することができるからです。

34. On the table ^ were six plates one on top of another.

テーブルの上に皿が重ねておいてあった。

34の例の On the table は主語ではなく、位置を示す副詞句です。文の語句の位置関係から、一目して主語のように見えます。この文頭には主語はなく、動詞の後に続く six plates が主語です。つまり、動詞＋主語の語順になっています。There のかわりに On the table があると思えば納得がいくかもしれません。そのわけは、文頭には旧情報が表現され、新情報は動詞の後に表現され、six plates を特に聞き手に印象付けようとする心理が働いているからです。重要な語句はとかく文の後方に置かれる傾向が強いです。文の焦点として機能するからです。

35. a. What kind of English songs do they have here?

b. They have all kinds (of songs). What song are you going to sing?

c. *What kind of English songs are there here?

35の例では、CD ショップで希望する商品の在庫を店員に、Are there ~? を使わずに、Do they have ~? で使って「～ありますか」と尋ねています。CD ショップの担当者があるかじめ意図的に商品の在庫に深く関与しているから、Do they have ~ という表現を使い、Are there ~? を使うことはできないのです。

36. I have two brothers ▪ George and John.

ジョージとジョンの三人兄弟です。

アメリカ人は兄弟の人数を他人に伝えるのに、自分のことを数の中に入れてに表現します。兄弟は There 構文を使わずに、I have ~ で表現します。兄・弟の言葉も brother の一言で表現できるほど家族関係だと言えるでしょう。

37. This car has a car navigation system.

この車にはカーナビが付いています。

カーナビは車に設置された電子機器であり、電子的に自動車の現在の走行位置や目的地への経路案内を行う自動車部品であり、ここ1～2年でのカーナビの技術革新には目を見張るものがあり、もはや自動車でのドライブにはなくてはならないアイテムとなっています。本体である車に搭載して機能する部品であり、両者は切り離して使用することはできません。従って、There 構文ではなく、have が使われます。

There 構文を含む重要慣用構文

38. There's no way I can ask him that.

私が彼にそれを尋ねることは絶対にありえない。

There's no way ～ は「いくらなんでも～ない [できない, ありえない]」という意味で、可能性を否定して「絶対に～ない」という非常に強い否定の意味を表します。「絶対に～ない」は、提案・要求・申し出に対して There's no way 「絶対に方法はない」と表現して、その可能性を否定し、次に具体的に「ありえないこと」の内容が後に続きます。ここでは、「それを彼に尋ねること」が絶対にありえないということですから、There's no way の後ろに I can ask him that と続きます。後続に明示的な表現を続けることで、それを確認したり、強めたりしています。There's が省略され、No way が文頭に置かれ倒置され、No way can I ask him that. になることもあります。

39. There's no way.

しかたないね。

40. There is nothing we can do.

わたしたちができることは何もない。

39と40の例は、「しょうがない」、「しかたがない」という意味です。今置かれている困難な状態から抜け出せず、今後の見通しや予測がまったく立たず、いろいろ考えて様々な策を講じてみたものの、やむを得ず何かを断念し、今の現状を甘んじて受け入れざるを得ないという諦観の境地を表しています。

There 構文を使った常套句は否定的意味を持つものが多い。次もそのうちの一つです。

41. There is no doubt that he will be successful.

彼が成功することは間違いない。

42. There is no doubt but (that) he will be successful.

彼が成功することは間違いない。

43. There is no doubt he will be successful.

彼が成功することは間違いない。

44. No doubt he will be successful.

きっと彼は成功するでしょう。

45. There is some doubt (as to) whether he will be successful.

彼が成功するかどうか少し疑わしい。

46. I doubt whether [if] he will be successful.

彼が成功するかどうかは疑問だ。

47. It is doubtful whether he will be successful.

彼が成功するかどうか疑わしい。

There is no doubt の文に、後続の that 節が意味を補足しています。この doubt と that 節は並列的な同格関係にあるように見えますが、There is no doubt と that 節との間に前置詞が予想されます。しかしながら、that 節は直接前置詞の目的にはならないので、about[of] the fact that ... が考えられます。主節である There is no doubt と後続する従属節との関係を明示するために、that, but, but that が接続詞として使われますが、今日では that が普通です。しかし、この that は省略されることが多い。このように、否定的意味を含む否定文では、彼の成功を実際に確信しているので、that, but, but that が続きます。一方、否定的な意味を含む肯定文では、つまり、彼の成功に多少疑念が残る場合は、whether あるいは if が続きます。whether は堅苦しい表現で、日常会話では if が使われます。これは There 構文に限ったことではなく、平叙文の動詞でも、形容詞でも同じことが言えます。また、There 構文は35と36の例と同様に I have, We have を用いて言い換えることができます。日常会話では、「疑いがない」が反意語的に「間違いない」という意味で使われています。No doubt は「間違いない」「きつと」(=Surely) という意味です。

There 構文のとっさの一言

「やるしかない」というとっさの一言は、There's no choice. と言います。There's ~ で始まる3語からなる感覚的な表現がいくつかあります。

48. There's a chance. まだ可能性はあるよ。

49. There's no hope. 絶望的だ。

50. There's some hope. 脈がある。

51. There's no alternative. 他に方法はない。

52. There's a phone call. だれか電話に出て。

53. There's a door. 出て行け。

(There's the door. が、強い口調になる)

54. There's a dear. いい子だから。

この48から54の例では、すべて不定名詞句に後続する当然あるべき位置に表現するべき場所の副詞句が存在しません。文を短くすることで、話し手の思いの丈を込めた感情があらわになり、緊迫した状況が伝わってきます。

There 構文の型

There 構文は、使われている主動詞の種類に応じて There+be+NP と There+Verb+NP の2種類に分類することができます。この2つには共通する特徴があります。一般的に言えば、There 構文は「談話の流れの中に、新しい情報を導入する」機能を持ち、伝えられる意味は「たまたま」という非恒常的な一時的状態の意味を表し、意味上の主語は、

一般に不定名詞句に限られ、主動詞の直後の位置を占め、その主動詞は広い意味で「存在」を表します。この不定名詞句は、後続する句や節によって文を拡張し、意味を限定化することができます。まず、be 動詞を主動詞とする There 構文から、詳しく見てみましょう。

55. a. There + be + NP + PP (There + be + 名詞句 + 前置詞句)

(1) There is a book on the desk.

本が机の上にあります。

(2) There is no risk of your being late for school.

君が学校に遅れる恐れはまったくない。

b. There + be + NP + AP (There + be + 名詞句 + 形容詞句)

(1) There were at least nine birds found dead yesterday.

少なくとも9羽の鳥が昨日死んでいるのが発見されました。

(2) There are two buttons missing on my jacket.

ジャケットのボタンが2個取れている。

c. There + be + NP + IP (There + be + 名詞句 + 不定詞句)

There's too much for me to do.

やらなければならない仕事が出ほどあるんだ。

d. There + be + NP + RC (There + be + 名詞句 + 関係節)

Is there something that perhaps you could recommend?

何かお勧めものはございますか。

e. There + be + NP + AC (There + be + 名詞句 + 同格節)

There have been recent news reports that women's clothing thought to be made in Japan are actually made in China.

日本製かと思ったら、実は中国製の婦人服だったというニュースが最近報じられた。

55a(1)はThere構文で最もよく見かける型です。55a(2)は名詞句のあとには前置詞があり、そのあとには動名詞が後続している例です。

There構文の場合、一般的に不定名詞句と同様に、場所の副詞句が必要です。たとえば、There is a book on the desk. では、これまで知られていない本がたまたま存在することを新情報として、すでにいつも使用している机を旧情報として関連づけが行われてはじめてThere構文の文が成立するのです。教室の教壇にいつも使っている本を置いて生徒の前で互いに目視しながら、There構文の機能を説明することは許されません。既知情報であったり、現に目に見えるものをThere構文で表現したりすることは容認できません。

There is a book on the desk. に関連して ?A book is on the desk. はどのように考えるべきでしょうか。新情報である a book が文頭の主語になっているのはいささか不自然な感じを与えます。発話は旧情報と新情報から成り、旧情報から新情報へと流れることを原則とし、すでに聞き手が知っている旧情報から情報価値の高い新情報へと積み上げていくことを原則としているからです。これは「文末焦点の原則」と言われています。A book は

この原則を無視して、いきなり文頭に現れているのです。これを回避する方法が、There 構文です。この There 構文では、旧情報は特定に場所に存在することを前提とし、新情報は動詞の後に置かれている a book を焦点とし、旧情報から新情報へと流れる原則に一致しています。

新情報である A book が主語の位置に決して現れない、と断言することはできません。また、There 構文ではすでに述べたように、主語の名詞句が不定名詞句ではなく、定冠詞を伴っていたり、固有名詞であっても、それが聞き手にとって未知の情報であれば、新情報として導入されます。

新情報である不定名詞句が主語の位置にあるとき、文全体が新情報になります。不定名詞句がその文の主題であり、述部は主語について表現されているのです。?A book is on the desk は視覚的に捉えているだけで、文としては「不自然」と言われています。There is a book on the desk と同じような意味に見えますが、同義ではありません。

しかし、動作主である人を不定名詞句の主語にすることは可能です。物が複数不定名詞の主語でも、疑問詞と場所を表す副詞句で主語が限定される場合は容認できます。

56. a. ?A book is on the desk.
- b. The book is on the desk.
- c. A doctor will be back in a minute.
- d. How many books are in the bookcase?
- e. How many books are there in the bookcase?

56a の場合、これは文法的には正しい文です。56b との違いはどこにあるのでしょうか。簡単に言って主語になるものは旧情報で聞き手と話し手の間で容認できるものでなければ話題になりません。従って、56b は正しい文と言えます。また、人を表す名詞が、物を表す名詞よりも主語になりやすいと考えられます。人は動作の主体であり、動作を支配するという意識が構図としてあるのではないのでしょうか。

56a は使われるコンテキストとはどんなもののでしょうか。ある人が一冊の本を探しています。誰かにその本を見かけなかったかどうかたずねたとします。その人が探している本が何であるか知っていて、ふと机の上にその本を見つけると、定冠詞で表現されますが、相手の人がその本が何であるかまったく知らない場合は、不定冠詞になります。このような場合は容認できます。

55b では不定名詞句は形容詞句によって修飾されています。ふつう動詞の現在分詞や過去分詞で修飾されるものが多いですが、There were no taxis available. ((乗ることのできる) タクシーがなかった) のように形容詞が一語の場合もあります。

55b(1) では、NP は found という形容詞的用法の過去分詞によって修飾されている複合名詞句になっていますが、意味では、NP とそれに後続する VP は S' を形成し、主従関係が成立してと思われれます。

55b(1) [VP There were] [NP at least nine birds found dead yesterday].

55b(1)' There were [S'[NP [at least nine birds] [VP found dead yesterday]]].

55b(1) は二通りに解釈されます。上の場合、真主語である birds は有生物なので「あります」ではなく、「います」を使って「昨日死んでいるのが発見された鳥が少なくとも9羽いました」と解釈されます。この日本語はとても不自然です。死んだ鳥の数が多いことが誇張されているからです。一方、55b(1)' は NP と VP には主従関係があります。主部は「9羽の鳥」と述部の「昨日死んでいる発見された」の間には主従関係が成立し、主部と述部に分けられ、文を形成しています。

55b(2) も、NP は missing という形容詞的用法の現在分詞によって修飾されている複合名詞句になっていますが、意味では NP とそれに後続する VP は S' を形成し、55b(1)' と同様に、主従関係が成立してと思われます。

55b(2)' There are [S' [NP two buttons] [VP missing on my jacket]].

ジャケットのボタンが2個取れている。

55b(2) の場合は、「私のジャケットには取れているボタンが2個あります」という誤りという訳ではないけれど、何かどことなく不自然さがあります。これはいずれも現実感の乏しい曖昧な意味で、話し手の困惑した状況が推測されます。「2個のボタンがあります」という初めて話題となる新情報と「ジャケットから取れてなくなっている」という旧情報との間には、意味的矛盾が生じて、実際の情景を描くことができないのです。つまり、ジャケットのボタンの「存在」と「紛失」が同時に成立してとてもつかみどころのない曖昧な矛盾が生じているのです。

55c There's too much for me to do.

55c は There 構文の名詞句を後続の不定詞が修飾する文です。much は do の意味上の目的語に、for は It is+形容詞+for でよく使われ、不定詞の意味上の主語となっています。不定詞の意味上の主語は、一般的または不特定な人または前後から推察されるときには、特に表現する必要がない場合がほとんどです。55d は割愛し、55e は別のページで詳しく説明しています。

There 構文は be 動詞以外にも、次のような主動詞が用いられて、There+Verb+NP が成立します。以下はその例と動詞の種類です。

57. a There never arose any problem.

問題はまったく起こらなかった。

注 *There didn't arise any problem. は不可です。

b There resulted a depression of the market.

その結果、市場が不況になった。

exist, live, remain, arise, emerge, happen, occur, take place, begin, rise, stand, sit, hang, lie, come, arrive, appear, seem, enter, burst, develop, be born, follow, result などがあります。これらの動詞は存在、出現、到来、移動、状態、生起などの広い意味で「存在」の意味を表す自動詞です。存在や出現と反対の概念を持つ意味は、自動詞では用いられません。また、新しい重要な情報である意味上の主語の一部を文尾に移動して強調することができます。文の要素を移動させることによって、強調の役割を果たしているのです。文の要素の

文尾移動は、主要な論点を最後まで言わずに残して置くことができ、聞き手の期待感を高めることができます。次はその一例です。

58. a There was a theft from the safe of a large amount of money.

その金庫から大金が盗まれた。

上の例のように不定名詞句の一部が右端に転移されています。これは読みやすさと見やすさを考えて適用される以外に、文の焦点としての機能を考慮して適用されます。その不定名詞句が強調され、さらに深く論理を展開することができます。

There 構文は、たまたま自然に行われること、思いがけない場所での偶然の出会い、ありふれた日常の世界で起きたできごと、全体の中のある部分に配置されている事物の自然のままの位置状況について語るときに使われます。聞き手の知りえぬ未知の事実を公表したり、報告したりするときに使われます。また、昔話の典型的な書き出しで始まる冒頭部分の記述にもよく使われます。初めて登場する人物を物語の世界に登場させ、日常の世界とはかけ離れた夢物語の中にいざなうのです。

59. Long, long ago, there lived an old man and his old wife in a village.

これは日本の昔話の中で人気のある「桃太郎」の書き出しの部分です。適切な指示対象もなく、場面の想定が見当も付かない中で、There 構文が使われて、「昔々、ある村におじいさんとおばあさんが住んでいました」と物語の基本情報が伝達され、そのメッセージによって物語の始まりとはじめて話題となる人物の登場という二つの基礎的機能が働いているのです。物語の始まりには、誰もいません。はじめて人物を物語の世界に登場させるのに There 構文が使われているのです。

There 構文では、主語の右方移動に伴って空白となった文頭の主語の位置へ具体的な意味を持たない虚辞の there が挿入され、「～がある」という意味です。しかし、厳密には次のように細分化することができます。

1. 「います」

There is a man at the door.

入り口に人がいます。

2. 「出席しています」

There were some famous people at the party.

パーティーに有名人が数名出席していました。

3. 「乗っています」

There were a lot of foreign tourists on the train.

電車に大勢の外国人観光客が乗っていました。

4. 「開かれます」

There was a going-away party for Mr. Smith the day before yesterday.

一昨日スミスさんの送別会が開かれました。

5. 「載っています」

There's a big story in today's paper.

今日の新聞に大きな記事が載っています。

6. 「かかっています」

There's an original painting by Chagall on the wall.

壁にシャガールの原画が掛かっていました。

7. 「行われます」

There were negotiations between management and labor today.

今日労使交渉が行われました。

8. 「やっています」

There's a live variety show on Channel 8.

8チャンネルで生バラエティ番組をやっています。

9. 「出る」

Do you mean there's no hot water? There's no water at all.

お湯が出ないんですか。いいえ、全然出ないんです。

10. 「～の便はありますか」

Is there a bus that goes to the airport? Yes, here's the timetable.

空港までのバスはありますか。はい、ここに時刻表があります。

11. 「起こる」

There is bound to be trouble.

きっと面倒なことが起こるに違いない。

このように There 構文はたくさん意味があつてなんと不明瞭な構文だと思われるかもしれません。これでは相手に意思を明確に伝えるという言語の目的からは逸脱するかもしれません。しかし、私たちは There 構文のもともとの意味である「～がある」という意味のカテゴリーの中に類似した隣接した関係の意味を組み入れて、つながりを意識しながら意味を拡張することができるようになります。文脈に合わせて意味を使用し、それが多くの人に受け入れられれば、共有することができます。

ま と め

外国に長い間住んで、日本語を一切使わずに英語を学ぶことができれば無意識のうちに英語を感覚的に理解できるようになるかもしれません。日本で生活しながら英語を学習するには、英語と日本語の間で、それぞれに対応するふさわしい表現を考え抜き、英語と日本語の接点と相違点を見極めなければなりません。

英語と日本語の間で、対応関係を見いだすのに窮することがあることを意識するようになります。これは英語という言葉の問題にとどまらない文化の領域にその原因があることに気づかされることでしょう。誰もが経験する問題で、英語を書くときも、話すときも絶えず留意しておくべき重要な事柄です。英語を学習する際、まず土台となるのは日本語の言語感覚であり、英語の言語感覚ではないということを理解しておかなければなりません。

日本語の感覚と英語の感覚のずれがあります。英語を習い始めたころに「～がある」という表現を覚えると、他の表現方法も思い浮かばないので、どうしても「～がある」という意味に解釈します。まさに泥沼にはまって抜け出せない状態になるのです。日本語としては不自然な表現になりかねないので、どこかで断ち切らなければならないのですが、かなり複雑な文にも、同じような基礎的な文法知識で対処しようとするのです。日本語の発想とはかけ離れた英語の特異性や文構造の複雑さにも気づかずに、無理に日本語を割り当てようとして、不自然な日本語を生み出してしまうのかもしれませんが。

There 構文はとても便利な表現です。まず、「存在する」ということをはっきりと伝え、誰が、誰に、何をどこにどのような状態にあるという明確な具体的内容を右方位置に移動する表現なのです。There 構文は具体的な細かい表現を考えるという面倒な手続きを踏まらずに、間髪を入れずに感覚的に述べる表現です。したがって、「～がある」と解釈するだけでは物足りないかなり奥深い意味合いを兼ね備えた構文です。存在だけでなく、深い意味の広がりニュアンスがあるのです。

There 構文を研究して気づいたことは、パラグラフのはじめに There 構文がよく使われていることです。論理の展開のテクニックとして There 構文が使用されているのです。パラグラフの冒頭にトピックセンテンスとして、問題点、解決策、原因、理由などの複数の事実の存在を網羅して、持論を展開すると説得力が増し、自分の考えを独善的に押し付けるのではなく、客観的な印象を積み上げることができます。また、複眼的に考察しているという印象を対象者に与え、あとのパラグラフの流れが自然に出来上がり、つなぎ語を用いて、重要度や優先順位に応じて、順序正しく理路整然と迷わずに、最後の要点までたどることができます。さらに、パラグラフの終わりに角度を変えた説明を提供することで「いろいろと論点を展開して結論づけている」という印象を与えることができます。

この There 構文にはいろいろな文法特性ありますが、実際に覚えておきたいものを次の3つです。存在構文でありながら多様な意味があること、述部にさらにもう一つの主従関係があること、主動詞に be 動詞だけでなく一般動詞も使われることです。

参考文献

- 安藤貞夫 『英語の文型』 2008. 開拓社
池内正幸 『名詞句の限定表現』 1985. 大修館
斎藤武生 安井泉 『名詞・代名詞』 1983. 研究社
中村捷 金子義明 『英語の主要構文』 2002. 研究社
ブレント・デ・シェン 『英文法の発見』 1997. 研究社